

## Catheter Ablation or Antiarrhythmic Drugs for Ventricular Tachycardia

Sapp JL, Tang ASL, Parkash R, et al. *N Engl J Med.* 2025;392:737-747.

### 陳旧性心筋梗塞による心室頻拍に対する早期カテーテルアブレーションの有効性

#### 【背景】

虚血性心疾患による VT は、ICD 作動につながる致死性不整脈であるが、ICD 作動は QOL 低下、心不全入院、死亡率増加と関連する。そのため VT 抑制のために抗不整脈薬投与やカテーテルアブレーションが行われるが、一般的には抗不整脈薬が初期治療として用いられ、無効例でアブレーションが行われることが多い。しかし初期治療としてアブレーションと抗不整脈薬のどちらが有効であるかについては明確な結論が得られてない。本研究では虚血性心疾患を背景とする VT に対する初期治療としてカテーテルアブレーションと抗不整脈薬治療の有効性を比較検討した。

#### 【方法】

対象は陳旧性心筋梗塞、ICD 植え込み後の症例で、VT を認めた患者を 1:1 でカテーテルアブレーション群と抗不整脈薬群（アミオダロン、ソタロール）に無作為割付した。またもとから抗不整脈薬を内服している症例は除外した。アブレーションは無作為化後 14 日以内に施行された。主要評価項目は全死亡、VT storm、ICD 適切作動、治療を要する持続性 VT の複合エンドポイントとし解析は intention-to-treat で行われた。

#### 【結果】

416 例が解析対象で、平均追跡期間は 4.3 年であった。主要評価イベントはアブレーション群 50.7%、抗不整脈薬群 60.6%に発生し、アブレーション群で有意にイベント発生率が低かった (HR 0.75, P=0.03)。死亡率単独では両群間に有意差は認めなかったが、ICD 作動および治療を要する持続 VT はアブレーション群で少なかった。また VT イベント総数もアブレーション群で少なかった。30 日以内の合併症としてアブレーション群では死亡 1.0%、非致死性合併症 11.3%であった。一方抗不整脈薬群では薬剤関連の副作用が 21.6%に認められ、肺毒性による死亡も認めた。

#### 【結論】

虚血性心筋症および VT を認めた ICD 植込み患者において、初期治療としてのカテーテルアブレーションは抗不整脈薬治療と比較して、全死亡、VT storm、ICD 作動、治療介入を要する持続性 VT からなる複合エンドポイントの発生リスクを有意に低下させた。死亡率単独では有意差を認めなかったものの、VT イベントおよび ICD 作動の減少に寄与しており、初期治療としてアブレーションを選択する戦略の有効性が示された。

## 【コメント】

本研究は虚血性心筋症に伴う VT 患者において、初期治療としてカテーテルアブレーションを行う戦略が抗不整脈薬治療よりも有効であることを示した無作為化比較試験であり、VT 治療戦略に影響を与える可能性がある。従来、VT に対する治療はまず抗不整脈薬を開始し、再発例や薬剤抵抗例に対してアブレーションを行う、投薬治療の先行が一般的であった。しかし本研究では初期治療としてアブレーションを行うことで、ICD 作動や VT 再発などの不整脈イベントを有意に減少させることが示された。

特に ICD のショック作動は患者の QOL を低下させ、心不全増悪や死亡率上昇とも関連することが知られており、ICD 作動回数を減少させること自体が重要である。本研究では ICD 治療回数および VT イベント数がアブレーション群で有意に少なく、これは臨床的に意義のある結果であると考えられる。

安全性については、アブレーションには手技関連合併症のリスクがある一方、抗不整脈薬には肺障害や肝障害、甲状腺障害などの長期毒性があり、本研究でも薬剤群で副作用が多かった点は重要である。特にアミオダロンの長期投与による副作用は临床上問題となるため、若年者や長期予後が期待される患者では早期アブレーションの意義は大きいと考えられる。

本研究の結果は、虚血性の VT 患者における治療戦略を、薬物治療後にカテーテルアブレーションから早期のアブレーションへと変化させる可能性がある。

千葉大学医学部附属病院 循環器内科  
松野 正直